

2025年 3 月期 決算補足説明資料

2025年 5 月15日



品川リフラクトリーズ株式会社

目次

1. 連結業績ハイライト
2. EBITDA ・ 営業利益の増減要因
3. セグメント別売上高及びEBITDA
4. セグメント別概況 ①耐火物セクター
5. セグメント別概況 ②断熱材セクター
6. セグメント別概況 ③先端機材セクター
7. セグメント別概況 ④エンジニアリングセクター
8. 2026年3月期の通期業績見通し
9. 2026年3月期通期 EBITDA ・ 営業利益の増減要因見通し
10. 地域別の売上高
11. トピック：社名変更

ご参考：Reframax社と当社グループのグローバル展開

1.連結業績ハイライト

(単位：億円)

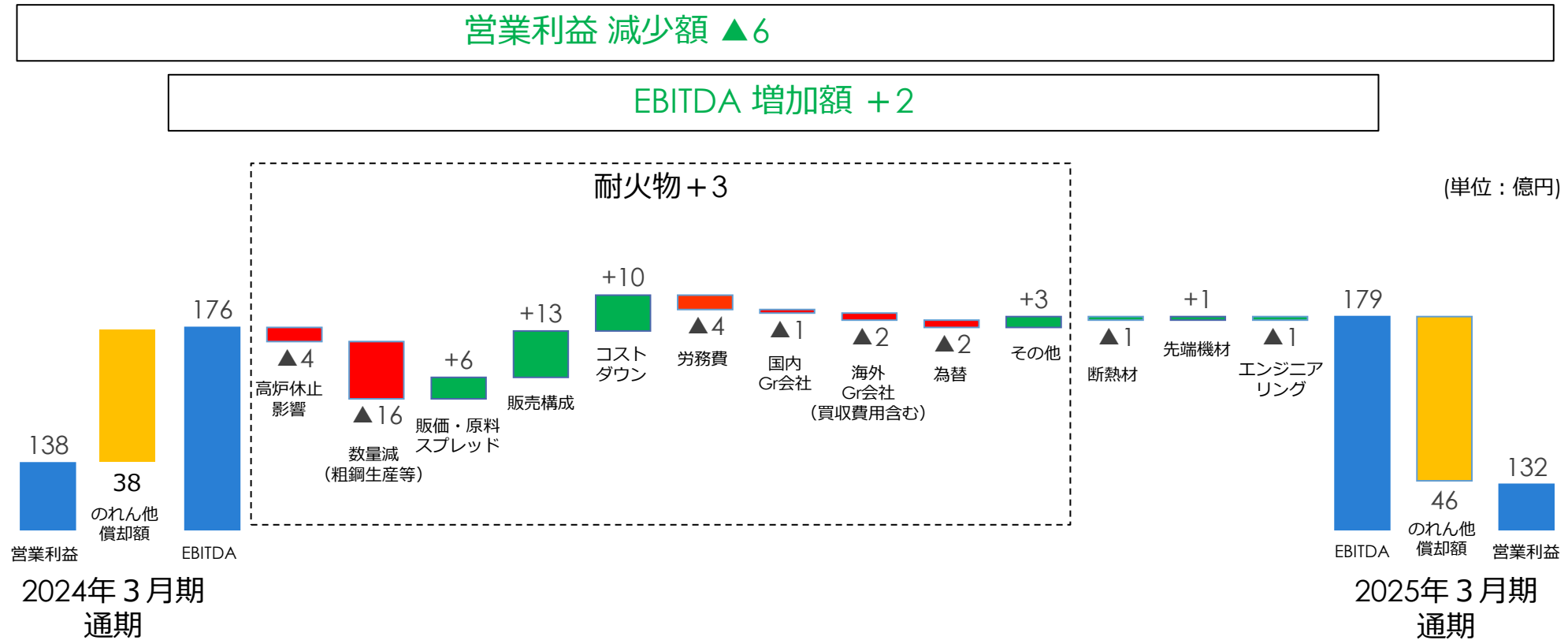
	2024年3月期 実績	2025年3月期 実績	前年同期比
売上高	1,441	1,440	▲1 (▲0.1%)
EBITDA	176	179	+2 (+1.5%)
営業利益	138	132	▲6 (▲4.4%)
経常利益	149	136	▲12 (▲8.4%)
親会社株主に帰属 する当期純利益	152	97	▲55 (▲36.0%)
<指標> EBITDAマージン	12.3%	12.5%	+0.2pt
ROS（営業利益率）	9.6%	9.2%	▲0.4pt
ROIC	9.2%	7.2%	▲2.0pt
DEBT/EBITDA倍率	0.4倍	2.0倍	+1.6pt

注1：前年同期比は本表記上の数値ではなく、一の位までの実績値で計算しています。以下同様

注2：EBITDA=営業利益+減価償却費+のれん償却額

- 2025年3月期 通期 国内粗鋼生産量は前年同期比4.5%減の8,295万トン。
- 耐火物セクターでは、国内粗鋼生産量の減少による耐火物販売数量の減少や海外においてもお客様の活動水準が低下したこと等による減収要因があったものの、オランダのGouda Refractories Group B.V.（以下、Gouda社）の第4四半期業績が寄与したこと、また、断熱材・先端機材・エンジニアリングセクターの増収により、全体の売上高は横ばい。
- 耐火物セクターにおいて、販売構成の改善によるスプレッドの拡大、コストダウン等を進めたものの、国内外の需要環境の悪化による耐火物販売数量の減少を主因に、のれん他償却額の増加もあり、営業利益以下の各段階利益は若干の減益。但し、EBITDAは増益を確保。
- 親会社株主に帰属する当期純利益は、前年同期に対し当連結期間には大きな固定資産売却益がなかったことが減益要因となった。

2. EBITDA・営業利益の増減要因



販売構成の改善によるスプレッドの拡大、コストダウン等を進めたものの、国内外の需要環境の悪化による耐火物販売数量の減少を主因に、のれん他償却額の増加もあり、営業利益は▲6億円の減益。但し、EBITDAは+2億円の増益を確保。

3.セグメント別売上高及びEBITDA

(単位：億円)

		2024年3月期 実績	2025年3月期 実績	前年同期比	
耐火物	売上高	984	958	▲26	(▲2.6%)
	EBITDA	106	110	+3	(+3.7%)
断熱材	売上高	185	187	+1	(+1.1%)
	EBITDA	41	40	▲1	(▲3.4%)
先端機材	売上高	35	43	+7	(+22.2%)
	EBITDA	2	3	+1	(+37.9%)
エンジニアリング	売上高	245	257	+11	(+4.8%)
	EBITDA	19	17	▲1	(▲6.6%)
その他（不動産）	売上高	9	9	+0	(+0.4%)
	EBITDA	6	6	+0	(+1.3%)
合計	売上高	1,441	1,440	▲1	(▲0.1%)
	EBITDA	176	179	+2	(+1.5%)

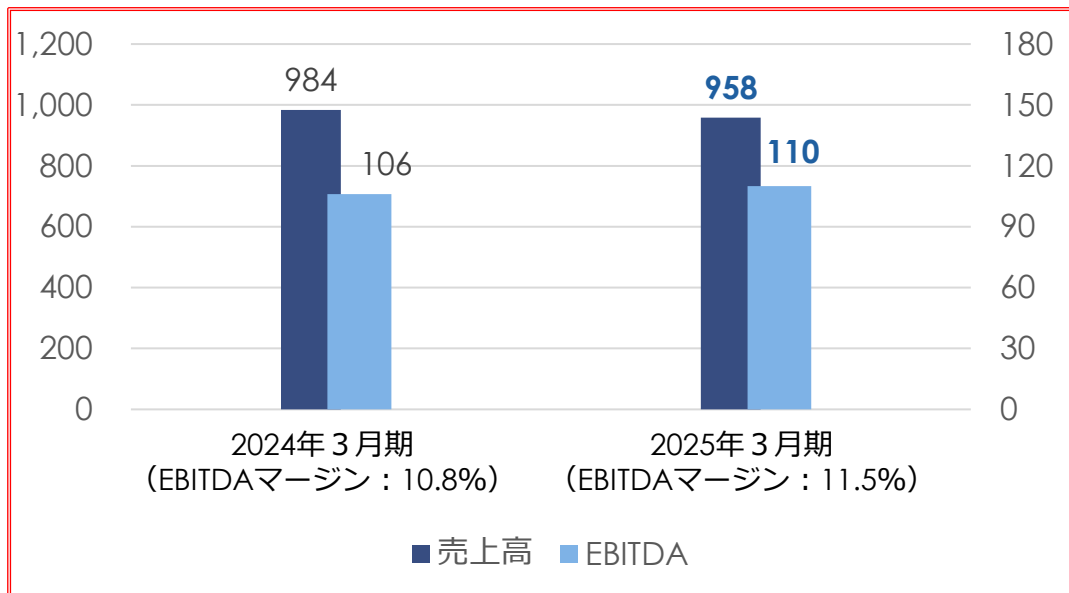
注：合計額には、セグメント利益の調整額が含まれています

4.セグメント別概況 ①耐火物セクター

業績推移

(単位：億円)

	2024年3月期第	2025年3月期第	前年同期比	
売上高	984	958	▲26	(▲2.6%)
EBITDA	106	110	+3	(+3.7%)
営業利益	80	76	▲3	(▲4.6%)
EBITDAマージン	10.8%	11.5%	-	(+0.7Pt)



「業績レビュー」と「今後の課題」

<通期業績について>

- ▶ Gouda社の第4四半期業績が寄与したものの、国内粗鋼生産量の減少による耐火物販売数量の減少や海外においてもお客様の活動水準が低下した影響等により、減収
- ▶ 販売構成の改善によるスプレッドの拡大、コストダウン等を進めたものの、国内外の需要環境の悪化による耐火物販売数量の減少を主因に、のれん他償却額の増加もあり、営業利益は若干の減益。但し、EBITDAは増益を確保。
- ▶ 主力の国内耐火物事業はEBITDA・営業利益共に増益

<今後の課題>

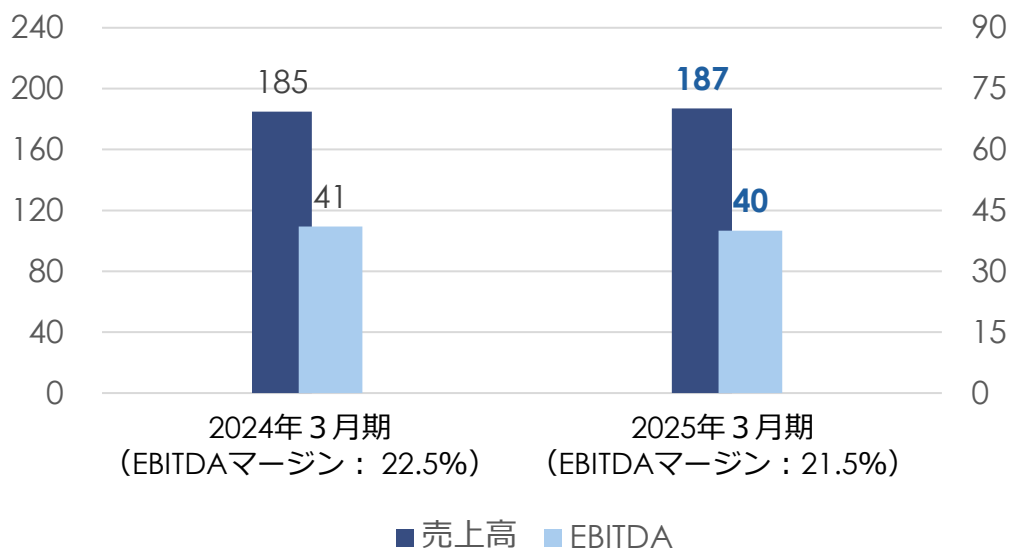
- ▶ 生産プロセスにおけるコストダウンの徹底
- ▶ グローバルサプライチェーンを通じた安価原料の調達
- ▶ 国内の非鉄・工業炉分野でのより一層のシェア拡大
- ▶ グローバルネットワークを駆使した拡販

5.セグメント別概況 ②断熱材セクター

業績推移

(単位：億円)

	2024年 3 月期	2025年 3 月期	前年同期比
売上高	185	187	+1 (+1.1%)
EBITDA	41	40	▲1 (▲3.4%)
営業利益	34	32	▲1 (▲5.1%)
EBITDAマージン	22.5%	21.5%	- (▲1.0Pt)



「業績レビュー」と「今後の課題」

<通期業績について>

- ▶ 第3四半期より欧州および中国市場の需要が減速し海外向け自動車関連製品の販売が減少したものの、国内向け耐火断熱れんがの販売が増加し、増収
- ▶ 上述の販売構成の変化が主因となり、減益

<今後の課題>

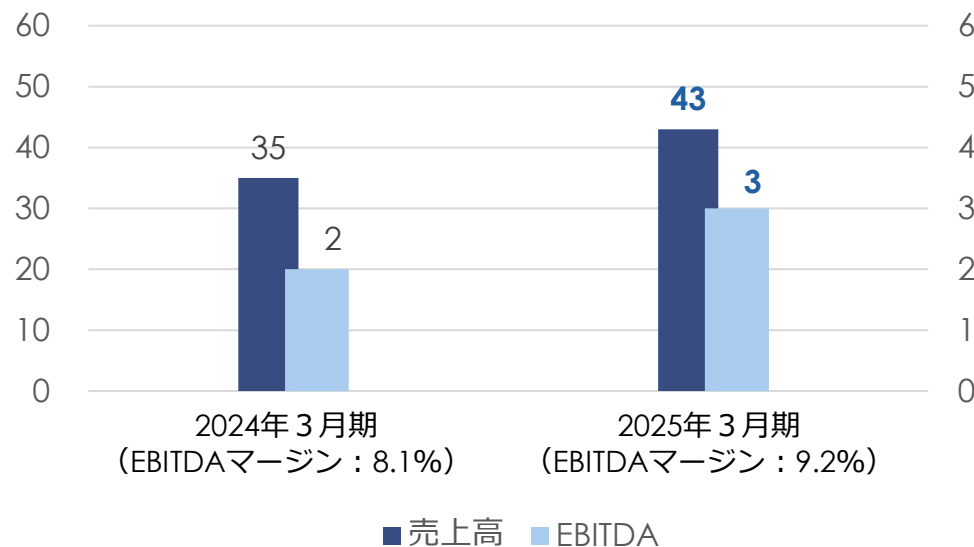
- ▶ 海外展開の加速（中国の半導体熱処理炉メンテナンス事業への参入等）
- ▶ 国内外のエネルギー設備関連への超断熱製品の拡販
- ▶ 他セクターとの協業による断熱材事業の強化・拡大
- ▶ 成長市場向けへの製品開発強化および拡販（燃料電池用部材等）

6.セグメント別概況 ③先端機材セクター

業績推移

(単位：億円)

	2024年3月期	2025年3月期	前年同期比
売上高	35	43	+7 (+22.2%)
EBITDA	2	3	+1 (+37.9%)
営業利益	1	1	+0 (+23.3%)
EBITDAマージン	8.1%	9.2%	- (+1.1Pt)



「業績レビュー」と「今後の課題」

<通期業績について>

- ▶ ファインセラミックス製品の拡販を進め、新たに加わったコムイノベーション社の業績も寄与したことから、増収・増益

<今後の課題>

- ▶ 今後需要拡大が見込まれる半導体製造装置関連製品需要の確実な捕捉
- ▶ 各分野向け耐摩耗部材の製品開発強化および拡販
- ▶ 無機塗料・無機接着剤製品の販売強化
- ▶ 半導体製造装置関連サービスにおける事業領域の拡大
- ▶ 生産性向上および新規分野への拡販に向けた新工場建設・立ち上げ

7.セグメント別概況 ④エンジニアリングセクター

業績推移

(単位：億円)

	2024年 3 月期	2025年 3 月期	前年同期比	
売上高	245	257	+11	(+4.8%)
EBITDA	19	17	▲1	(▲6.6%)
営業利益	17	16	▲1	(▲6.4%)
EBITDAマージン	7.8%	7.0%	-	(▲0.8Pt)

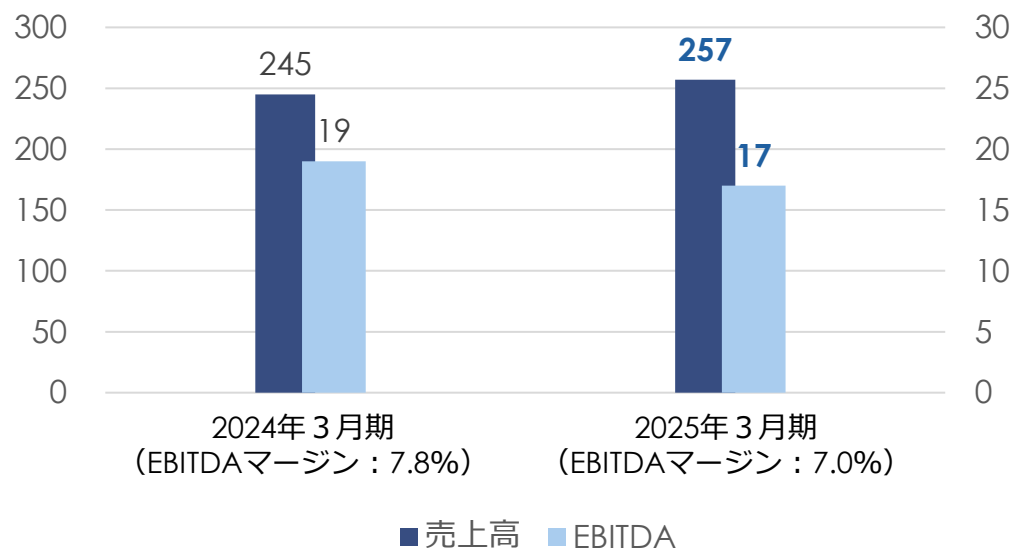
「業績レビュー」と「今後の課題」

<通期業績について>

- ▶ 人件費の上昇に伴う工事契約単価の改定および各所工事案件の増加により、増収
- ▶ ブラジルのエンジニアリング企業Reframax社の買収に伴う関連費用の計上等により、減益

<今後の課題>

- ▶ カーボンニュートラル案件（大型電気炉、カーボンリサイクル高炉）への対応
- ▶ 大型建設工事案件（熱風炉・コークス炉等）の受注獲得
- ▶ 工業炉分野（カーボン焼成炉等）での受注拡大
- ▶ 新技術の導入による築炉作業等の負荷軽減および効率化（ドローン活用等）
- ▶ Reframax社との技術連携によるエンジニアリング事業の強化・拡大



8. 2026年 3 月期の通期業績見通し

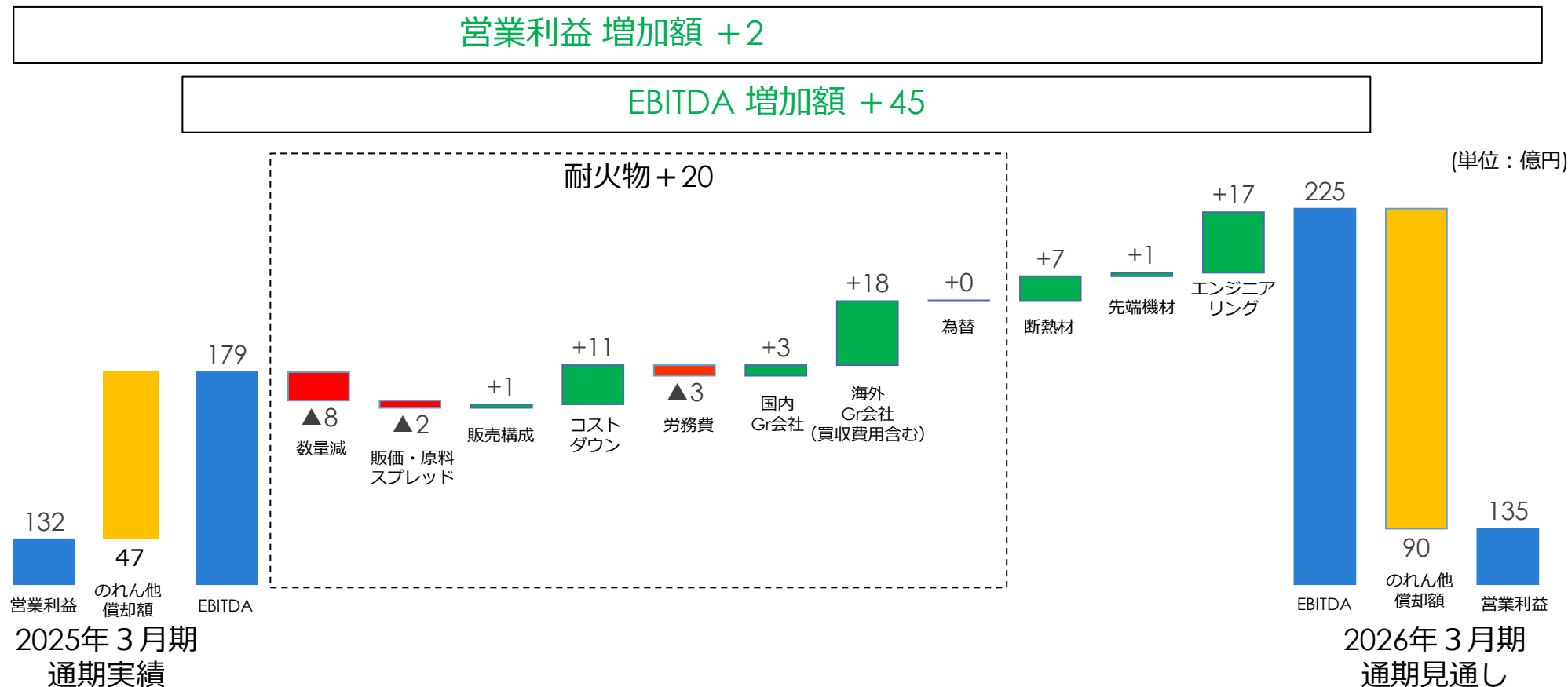
(単位：億円)

	2025年 3 月期 通期 実績	2026年 3 月期 通期 見通し	前年同期比
売上高	1,440	1,740	+299 (+20.8%)
EBITDA	179	225	+45 (+25.3%)
営業利益	132	135	+2 (+1.7%)
経常利益	136	135	▲1 (▲1.1%)
親会社株主に帰属 する当期純利益	97	80	▲17 (▲18.2%)
<指標> EBITDAマージン	12.5%	12.9%	+0.4pt
ROS（営業利益率）	9.2%	7.8%	▲1.4pt

<2026年3月期 通期見通し>

- 2026年 3 月期の前提国内粗鋼生産量は微減としている。但し、見通しは困難であり、変動リスクを伴う状況。
- 厳しい事業環境が継続することが予想されるが、Gouda社およびReframax社の業績が寄与することにより、大幅な増収見込み。さらに、グローバルネットワークを活用した拡販活動の推進および生産プロセスにおけるコストダウンの徹底、安価原料の調達等により、EBITDAは増益を図る。
- 上述の結果、親会社株主に帰属する当期純利益は、80億円の見込み。

9. 2026年3月期通期 EBITDA・営業利益の増減要因見通し



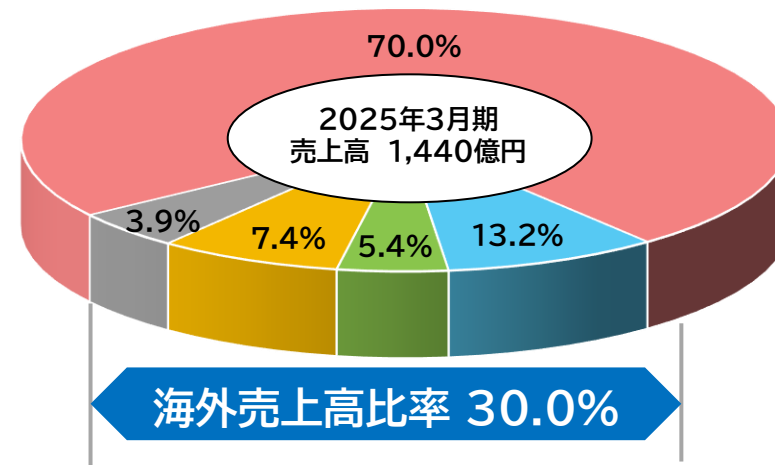
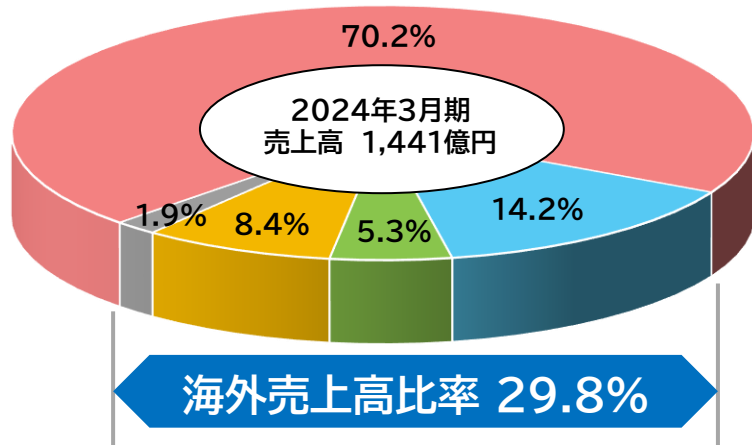
国内の粗鋼生産および海外のお客様の活動水準等によるマイナス影響が予想されるが、コストダウンの徹底、全セクターにおけるグローバルネットワークを駆使した拡販、Gouda社およびReframax社の業績が寄与すること等の見込みにより、EBITDAは+45億円の増益、営業利益はのれん他償却額を勘案して、+2億円の増益見通し。

10. 地域別の売上高

(単位: 億円)

	2024年3月期	2025年3月期	前年同期比
日本	1,012 [70.2]	1,009 [70.0]	△0.3%
アジア・オセアニア	205 [14.2]	190 [13.2]	△7.1%
北米	76 [5.3]	77 [5.4]	+1.9%
南米	120 [8.4]	106 [7.4]	△11.6%
その他海外	27 [1.9]	56 [3.9]	+106.0%
合計	1,441 [100.0]	1,440 [100.0]	△0.1%

注: []内は、地域別の売上高構成比(%)



当期は、前年同期比で海外売上高比率が0.2%上昇。オーストラリアではお客様の操業トラブルによる影響、ブラジルでは中国製鋼材流入によるお客様の活動水準の低下により、減収となったものの、第4四半期よりオランダのGouda社の業績が寄与したこと等により海外売上高比率が30%となった。仮にGouda社およびReframax社の業績が年間で寄与した場合の海外売上高比率は**約45%**となる。

11.トピック：社名変更

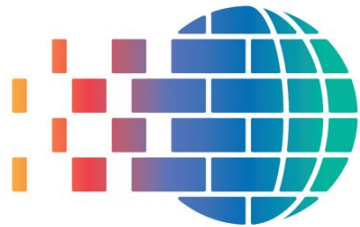
社名変更のお知らせ

当社は1875年に創業し本年10月に150周年を迎えます。この節目を、先人が築いてきた歴史をこの先100年、150年と繋いでいくためのスタート地点であると考え、未来に向かって成長を続ける企業を目指すべく社名を「品川リフラ株式会社（英文：SHINAGAWA REFRA CO.,LTD.）」とすることといたしました。

（2025年6月26日開催の第191回定時株主総会に付議し10月1日に社名変更予定）

150年の歴史と伝統を引き継ぎつつ、耐火物を意味する「リフラクトリーズ」から「リフラ」という造語に変更することで、耐火物以外の断熱材、先端機材、エンジニアリング事業にも注力していくことをお示しし、より皆様に親しみを持って頂く企業グループを目指してまいります。

注：「商号変更及び定款変更のお知らせ」については、2025年3月27日に公表



150年、熱中。
150th Anniversary



No Refractories, No Life
150th Anniversary

ご参考：Reframax社と当社グループのグローバル展開

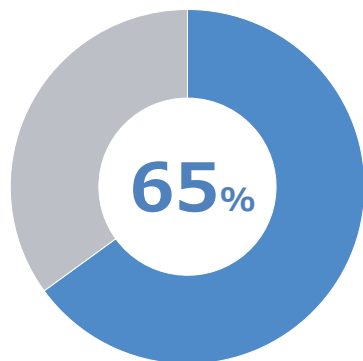
Reframax社 概要

注：Reframax社の買収については、2025年3月19日に「ブラジルのエンジニアリング施工企業の株式取得を通じたグローバル事業の推進に関するお知らせ」および「Reframax社の株式取得を通じたグローバル事業の強化」にて公表

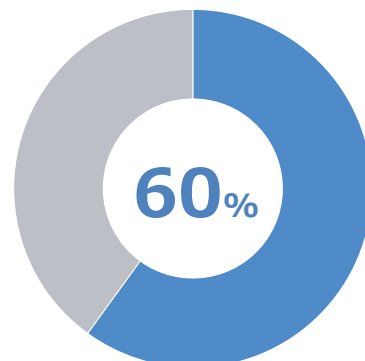
■ 基本情報

本社	ブラジル ミナスジェライス州 ペロオリゾンテ
設立	1999年
従業員数	約4,500人
事業内容	➢ 耐火物工事、断熱工事を中心に事業を展開 ➢ 2015年以降にサービス範囲を拡大し、足場工事、工業塗装、鋼構造物の総合修理、土木工事のメンテナンス、耐火被覆工事等の事業を開始
業績 ⁽¹⁾	2024年実績 売上金額：235億円、営業利益：26億円（11%）

■ 耐火物施工の売上高割合⁽²⁾



■ 鉄鋼メーカー向け売上高割合⁽³⁾



■ Reframax社の強み



Note: (1) BRL/JPY=25.6 (2) 2023/12期業績に基づく概算値。その他セグメントには、電気機械、足場、塗装、断熱、海外、小規模案件が含まれる

(3) 2024/12期業績見込に基づく概算値。その他顧客には、鉱業、化学・石油化学、ニッケル、パルプ・製紙、エネルギー・バイオマス、アルミ関係、セメント、耐火物が含まれる
出所：Reframax社HPおよび開示資料

ご参考：Reframax社と当社グループのグローバル展開

Reframax社 展開地域

- 1999年の設立以来エンジニアリング事業を展開。
2006年以降は南米を中心にブラジル国外へ事業を拡大

沿革

1999	Reframax社設立。大手鉄鋼メーカーとのリレーションをもとにビジネスを拡大
2002	最初の大規模耐火物工事を受注
2004	紙パルプ工場における最初の大規模断熱工事を施工。また同年にISO9001の認証を取得
2006	アルゼンチン、ペルー、コロンビア、トリニダード・トバゴ等国外への進出を開始
2009	コロンビアで初めての長期契約を獲得
2015	機械組立、工業塗装等、サービス内容を拡充
2016	ISO 14001及びOHSAS18001の認証を取得
2019	カナダでの耐火物案件を初受注し、北米へ進出

出所：Reframax社HPおよび開示資料

展開拠点



ご参考：Reframax社と当社グループのグローバル展開

本買収の意義

グローバルビジネスの拡大

- 中長期的に安定した需要が見込まれる米州大陸でのプレゼンスを強化
- 国内・鉄鋼分野に限定されない成長機会の取込み

海外での展開市場の拡大

- 耐火物を中心に、電気機械・土木、塗装、断熱等の付随業務へサービス拡大
- 鉄鋼・鋳業を中心に、非鉄金属、化学、石油化学へも顧客層を拡大

当社グループとのシナジー

- Reframax社は米州地域で耐火物施工を中心にエンジニアリング事業を展開
- 高い技術力を有し当社グループとの多面的なシナジーが見込まれる

エンジニアリング事業の強化

- グループ全体での人材交流・技術交流を通じて、エンジニアリング事業を強化
- 2024年のGouda社買収に加えて、グローバルでの施工体制構築に寄与

SS 品川リフラクトリーズ株式会社

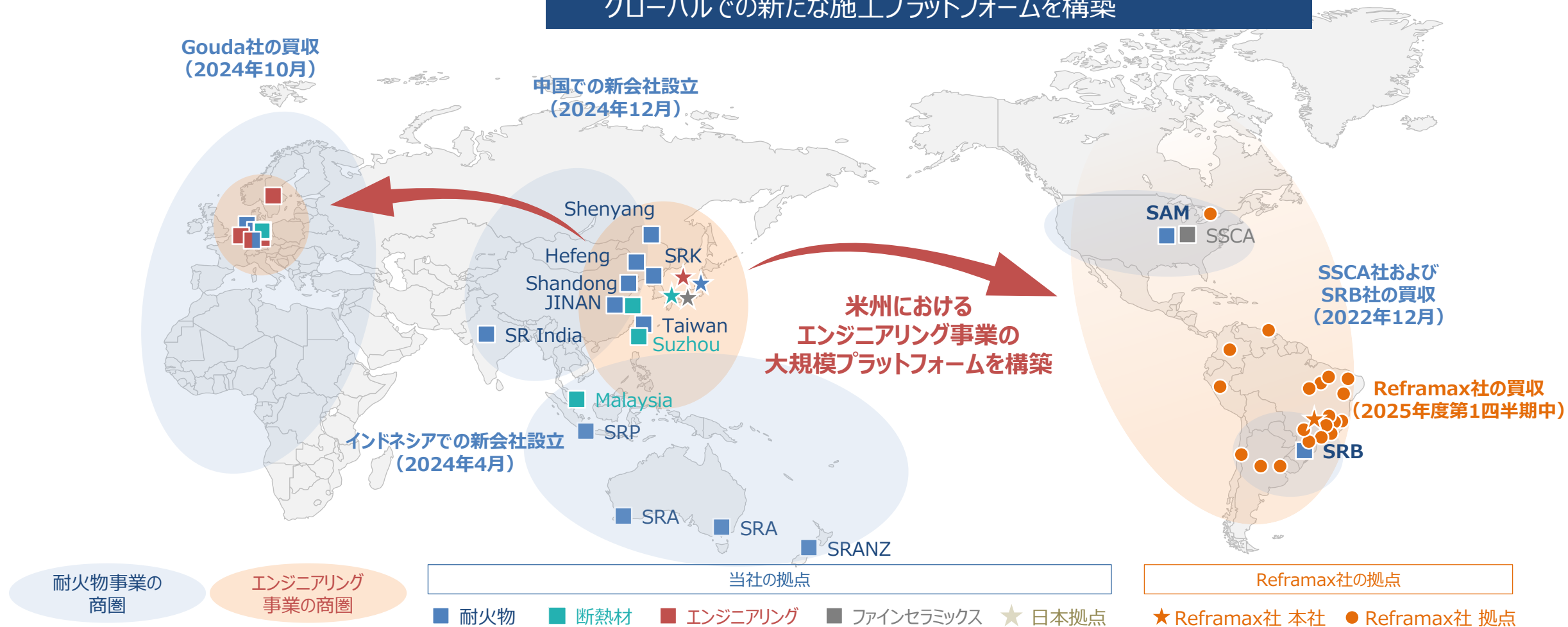
REFRAMAX

Reframax Engenharia Ltda. (Reframax社) の買収を通じて、当社グループは中長期的に安定した需要が見込まれる米州大陸でのプレゼンスを高め、エンジニアリング事業の強化・拡大を目指す

ご参考：Reframax社と当社グループのグローバル展開

グローバルビジネスの展開

- 国内既存ビジネス、2024年10月に買収したGouda社に加えて、グローバルでの新たな施工プラットフォームを構築



ご参考：Reframax社と当社グループのグローバル展開

シナジーの最大化に向けた取り組み

- 互いのプラットフォームを活用した双方の人材・技術交流を通じ、グループ全体でのシナジーの最大化を実現

 SHINAGAWA REFRACTORIES





ガバナンス

株式の60%を保有し取締役の過半を確保
Reframax社の企業価値向上をサポート



現経営陣が続投し、現地の事業展開を推進
エンジニアリング企業としての利益最大化を追求



海外進出

Reframax社のアジア・欧州・北米
への展開を積極的に支援



米州地域での強固なプレゼンスを基盤に当社
グループの施工体制強化に寄与



事業展開

高品質製品
(耐火物・断熱材・ファインセラミックス等)
の提供



総合エンジニアリング企業としての技術力・
ノウハウを当社グループへ提供

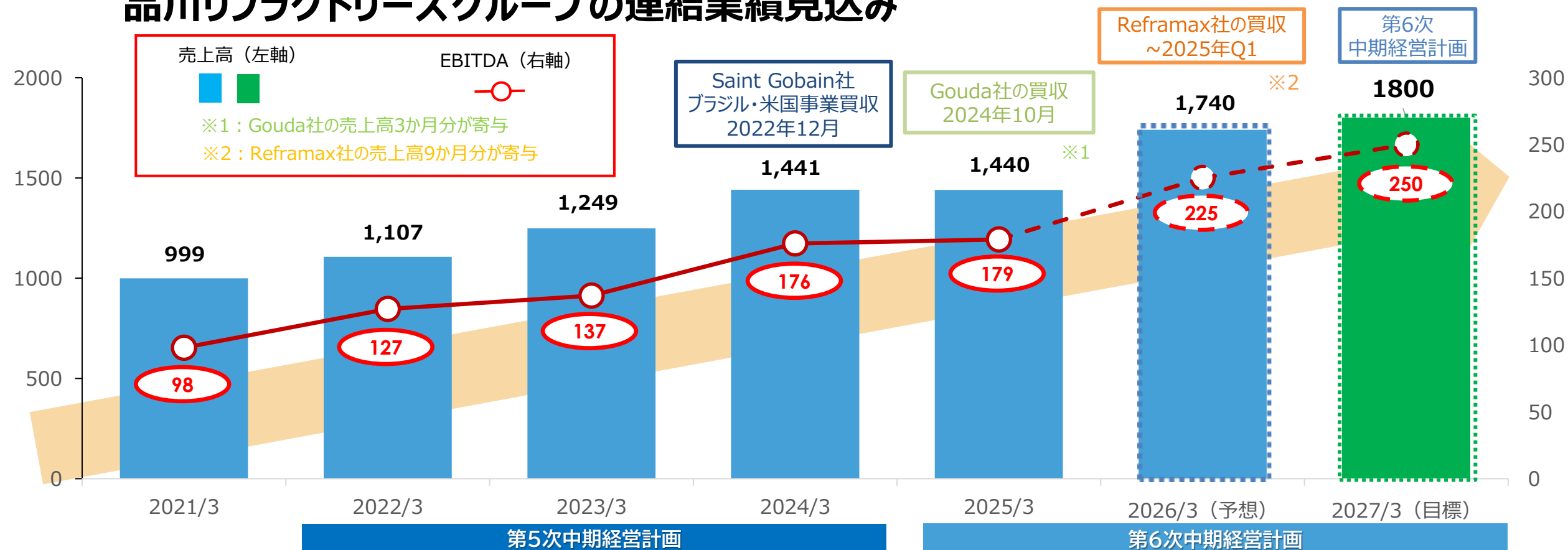


技術・人材
交流

活発な技術交流を通じた施工技術の向上
グループの工事対応力向上に寄与する人材交流の推進

ご参考：Reframax社と当社グループのグローバル展開

品川リフラクトリーズグループの連結業績見込み



- 2022年12月のブラジル・米国事業、2024年10月のオランダのGouda社に続き、ブラジルのReframax社の買収は第6次中期経営計画達成に向けた取り組みを強化

ご注意

本資料は、2025年3月期決算（2024年4月～2025年3月）の業績に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券への投資を勧誘することを目的としたものではありません。

また、本資料は、2025年5月15日現在のデータに基づいて作成されております。本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断であり、その情報の正確性、完全性を保証又は約束するものではなく、また、今後予告なしに変更されることがあります。